

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○5月20日～

先週は米国の消費者物価指数(CPI)が予想より弱い結果だったことで、再び利下げに対する期待が高まりました。

このため米国の株価指数は軒並み高値更新となり、NYダウはついに4万ドルを超える動きとなりました。

日本株は米国株に比べると少し勢いがなく、日経平均も3月末の高値まで回復していません。

為替相場も先週は後半にかけて円安の動きとなっています。

金融政策によって右往左往しているマーケットですがドル/円は介入警戒感がなくなってきた分、比較的安定した動きに戻りそうです。

米国の利下げ期待によるドル安・円高への圧力が増した分、少しドル/円の上昇が緩やかになる可能性があります。

ただし、大きくトレンドが転換するような状況とは思えず、円安トレンドはしばらく続きそうです。

米国の利下げについては、まだはっきりせず、年内2回程度の利下げ予想との見方が出ています。

一方、欧州に関しては、6月利下げはほぼ確実ではないかという予想となっています。

円に対してだけでなく、ドルに対するユーロの動きに変化が出てくるかも見ておきたいです。

今週は、米国ではFOMC議事要旨などの発表があります。

FRB関係者がこのところ利下げに対して慎重な姿勢を見せていることから米国の金融政策がどうなっていくのか注目が集まっています。

そして、株式市場では今週エヌビディアの決算があるため波乱があるかもしれません。

為替相場も株価が大きく動くと影響を受けることがあるので、引き続き、米国株、日本株の動きは見ていきたいです。

株式市場がなぜこれほど強いのか不思議に思っている人もいますがQT(量的引締め)を継続している米国ですがFRBの負債の部分のリバースレポ(FRBが国債などを担保に民間金融機関から資金を借り入れる制度)が減少して、準備預金が増えています。

この準備預金が増える(中央銀行が世の中に供給するお金)の増加によって、マーケットに入ってきているため株価などを支えているというような構図です。

ということで、金利の上げ下げ、量的引締めや緩和だけでなく、マネー全体の流通量が増えているか減っているかによってマーケットは影響を受けます。

少しややこしいですが米国の利下げだけでなく、QTやマネーの供給量がどのように変化しているかも考えて金融政策を見ていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週のドル/円は木曜につけた153円台半ばを底に週末にかけて上昇してきました。156円あたりで少し頭打ちになっていますが、ここを超えると156.8円、さらには158円あたりのレジスタンスまで値を伸ばしそうです。ただし、勢いは少し弱まっているのでじわじわとした上昇になるかもしれません。下値は155円を割り込むと153円台までの下落は想定しておきたいです。5月3日の安値151.8円、16日の安値153.5円と安値が切り上がる形になっているので、154円程度までの下げなら円高リスクはそれほどないと思います。中長期的には150円を割り込まない限り、円安トレンド継続と考えてよさそうです。今週も下がってきたところを狙って買っていく押し目買い戦略でいきたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も連休明けから順調に上昇してきているペアが多く、急落したところは買いのチャンスになっています。今週は今月初めから続いている上昇トレンドが続くかがポイントになりそうです。ただし、株価に波乱が起こると高値圏から急落する動きが出るかもしれないので、リスク管理はしっかりしていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では4月貿易統計、3月機械受注、4月全国消費者物価指数などがあります。米国では4月中古住宅販売件数、FOMC議事要旨、前週分新規失業保険申請件数、5月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、4月新築住宅販売件数、4月耐久財受注、5月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。欧州ではユーロ圏とドイツで5月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、ドイツで1-3月期GDP(改定値)などがあります。ほかには、ニュージーランドで政策金利、カナダと英国で消費者物価指数の発表などがあります。